

リコー三愛グループ

三愛会会誌

No.146/2010

特集 仏像、大好き！

知っておくと、より面白い「仏像の基本知識」



【今号のトピックス】

社長インタビュー：リコーエレメックス 沢光司社長
将来を見据えるための「考える時間」を創る

私のおすすめスポット：全国各地のご当地グルメ、B級グルメをご紹介
安い！うまい！ご当地・B級グルメ

仲間たち・集う：山ブームの理由は？
登山大好き！山ガール集まれ！

WAVE

特集

仏像、大好き！

監修・文・イラスト 田中ひろみ氏 (イラストレーター & 文筆家)

「ある日突然、仏像に目覚めていて、気がついたときには、たくさんの仏像を見るために、全国各地のお寺に頻繁に足を運ぶようになっていた。そしてそのうち、いろいろな人に仏像の素晴らしさを伝えたいと思うようになっていた」という田中ひろみさんによる、「イラスト入り、分かりやすい仏像講座」です。読者の皆さんの好きな仏像もご紹介していますので、楽しみながらお読みください。

写真：奈良の大仏（るしやなぶつざそう盧舎那仏坐像・東大寺）

写真提供：奈良市観光協会 / 撮影：矢野建彦

釈迦の一生

仏像のモデルは
お釈迦様

仏像のモデルとなった釈迦は、紀元前六〜五世紀ごろ、インドの釈迦族の王子として生まれました。十六歳で結婚して一子をもりましたが、人生苦に直面して二十九歳で一切を捨てて出家をしました。断食を含む苦行生活をしたが悟りを開けず、苦行を捨てました。そして村娘スジャータの捧げる乳粥で体力を回復した後、瞑想によって悟りの境地に至ろうと試み、菩提樹の下で瞑想に入り、三十五歳で悟りを開いたのです。その後、サルナート（鹿野苑）で最初の説法を行った後、インドの各地を遍歴して多くの人に説法をし、たくさん弟子を作りました。そして、八十歳の時に、クシナガラ（沙羅双樹）の下に横たわって入滅（死亡）しました。

天上天下
唯我独尊

誕生像

生まれてすぐに7歩進んで右手で天、左手で地を指し、「天上天下唯我独尊」（天にも地にも我が命は一つだけで尊い）と宣言した。釈迦の誕生日といわれる4月8日の「花祭り」のときには、この像に甘茶をかける。



オギヤ



摩耶夫人像

4月8日にルンビニ園で、釈迦の母である摩耶夫人が無憂樹の花を手折ろうとして手を上げたら、右脇の下から釈迦が生まれたという。

苦行像

29歳のとき、世に無常を感じ、王子の座と妻子を捨てて出家、6年間の苦行生活を送る。苦行像はそのときの姿を表したもの。しかし結局は、苦行では悟りを開けず、菩提樹の下で瞑想することになる。



説法像

鹿野苑で最初の説法をしたときの釈迦の姿。悟りを開いた釈迦は、他の人にもその境地を教えたいと、人々に説法するようになった。人々にジェスチャーを交えて話をしているように見える。



涅槃像

釈迦の最期の様子を表したものの。布教の旅に出た釈迦は、2月15日に沙羅双樹の下で、多くの弟子や動物たちに囲まれ、右手を手枕にして横たわり、80歳で入滅した。

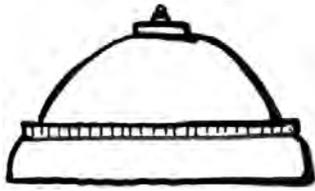


さようなら

仏像の誕生

そもそも仏像って何？

仏像とは、もともとは仏教を始めた釈迦の像のことです。釈迦が亡くなって、最初は釈迦の遺骨（仏舎利）を安置する仏塔がつくられました。しかしその当時は、偶像否定という考え方が世間を支配しており、釈迦の像をつくることは禁じられていました。そのため人々は、仏像の代わりに仏塔や、釈迦を象徴する仏足石、法輪や菩提樹を拜んでいました。やがて、釈迦の姿を見たいという人々の願いで、釈迦の像である「仏像」がつくられるようになったのです。現在、一般に言われている「仏像」とは、釈迦の姿だけではなく、釈迦（如来）以外の仏……菩薩、明王、天、羅漢などの像全般のことを指しています。



仏塔（ストゥーパ）

この塔の下に釈迦の遺骨（仏舎利）が納められている。



五重塔

仏塔は、日本で言うならば五重塔。やはり塔の下に釈迦の仏舎利が納められている。



仏足石

釈迦の足の裏をかたどったもの。刻んだ足形の上に釈迦がいるという空間を表している。



法輪

法輪は梵語（サンスクリット語）のダルマ・チャクラの漢訳で、車の輪が回り続けるように、未来に向かって永遠に広められていく仏の教えを象徴している。



菩提樹

釈迦如来が菩提樹の下で、悟りを開かれたことから、シンボルとされている。



仏像がつけられる

インドから中国へ伝わった仏教と一緒に、仏像が日本に入ってくる。

（イラスト：仏三尊像／ニューデリー国立博物館）

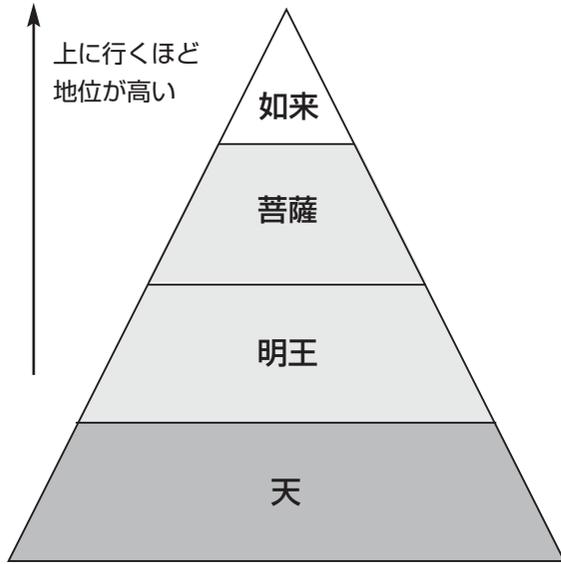
レベルと種類

仏像にもランクがある

人間社会に会社や学校、家族などいろいろな組織や集団があるように、仏像にも組織があり、その組織内はいくつかの段階や種類、役割で分けられています。

大別しますと、如来、菩薩、明王、天に分けることができます。そして、同じ段階にある仏像は、見た人がすぐ分かるように、決まった髪形や服装をしているのです。ランクを付けると、一番位が高いのは如来で、二番目が菩薩、三番目が明王、四番目が天となります。

仏像のレベル



仏像の種類



菩薩

将来、如来を目指して修行中の者。如来の衆生救済を補佐する役割がある。観音菩薩、弥勒菩薩、地藏菩薩などがある。



如来

仏教上の最高の状態にある存在で、悟りの世界に行ってしまった者、悟りを開いた者。釈迦如来、阿弥陀如来、薬師如来などがある。



天

インドで信じられていた神様が仏教に取り入れられたもの。仏教の中では最も種類が多い。四天王や閻魔大、七福神で有名な弁財大や大黒天、吉祥天などがある。



明王

密教の中で考え出されたグループで、大日如来の分身。大日如来の命を奉じ、怒りの相を表した不動明王が最も有名だが、愛染明王などもある。

一般的によく知られているものは、如来、菩薩。そしてその後にく明王や天以外にも、羅漢や高僧と呼ばれるものがつくられるようになってきました。

羅漢は、十大弟子（釈迦の弟子の中で最も優れた十人の弟子）をはじめ十六羅漢（仏法を護持することを誓った十六人の弟子）など。また、高僧は、仏教の歴史の中で大きな役割を果たし、信仰の対象になっている僧侶のことで、伝教大師最澄や弘法大師空海、達磨大師などが含まれています。

如来

悟りの世界からやってきて
人々を救う

「如来」とは、「悟りを開いた者」と言われているだけあり、まさに超人で、「三十二相八十種好」という特徴を持っています。例えば、身長一丈六尺(約四・八m)、頭の知恵のコブ(肉髻)、螺髪と呼ばれる髪の毛、指の間にある水かき状の膜(縷網相)、眉間に生えた白く長い巻き毛(白毫)、足の裏の模様……などなど、とても人間とは思えない特徴がたくさんあるのです。

また、如来にはさまざまな種類があります。最初につくられたのは釈迦如来ですが、時代が下ると次々と新しい如来像がつくられるようになったのです。それは釈迦だけでは手が足りないと考えられるようになった結果とも言われています。

代表的なものに薬師如来、阿弥陀如来、大日如来などがあり、一見、釈迦如来と似ていますが、手の形や持ち物が異なるので、そこから見分けることができます。



薬師如来

薬師如来坐像
新薬師寺(奈良)
木造・平安時代
国宝

手に薬壺を持っている(奈良時代以前につくられたものは持っていないものもある)。東の瑠璃光世界というところに住んでおり、人々を病苦から救ってくれる。日本では特に病氣平癒の仏として親しまれている。



釈迦如来

釈迦如来像
法隆寺(奈良)
金銅造・飛鳥時代
国宝

釈迦族の王子として出家し、修業時代の釈迦をモデルにしている。右手を開いて「怖くないよ」、左手を開いて「望みを聞いてあげる」を表している。



阿弥陀如来

手の指で丸の形をしている。西の極楽浄土に住み、人が死ぬときに迎えに来て、極楽浄土に連れていってくれる。釈迦の死後、世が乱れると信じられていた。そのため、念仏を唱えて阿弥陀如来にすがる浄土信仰が平安時代に広まり、信仰された。



大日如来坐像(金剛界)
円成寺(奈良)
寄木造漆箔・鎌倉時代・国宝

大日如来

密教において最高位の如来で、宇宙と一体であると考えられている。如来でありながら、頭は螺髪ではなく髪を結び上げ、冠をかぶり、アクセサリをつけている。金剛界の大日如来は、胸の前で忍者のような印(手の形)を結んでおり、金剛界曼陀羅の中心にいる。胎藏界の大日如来は、おなかの前で両手を上下に重ねており、胎藏界曼陀羅の上部中央にいる。

印

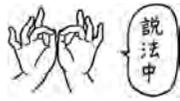
手の形から仏像を見分ける

「印」(印相の略)とは、本来釈迦の身振りから生まれたもので、手

話のような手の形でいろいろな意味を持ちます。どの仏像がどの印を結びか決まりがあるので、印を見ることによってその仏像がどの仏であるか、ある程度分かります。



施無畏印、与願印
 恐らくないこと、願いを聞いてあげることの意味する。如来像の示す一般的な印。



説法印
 (転法輪印)
 説法する姿を表す。釈迦の教えが車輪のように早く広がることを表す。釈迦如来や阿彌陀如来の印。



瞑想印
 禅でおなじみの印で、瞑想している姿を表す。胎蔵界の大日如来や釈迦如来の印。



智拳印
 智慧を象徴している。胸の前で左手の人差し指を立てて、右手でその指を握る。金剛界大日如来の印。



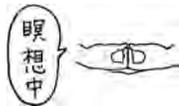
刀印
 飛鳥時代の仏像に多く、指2本で指差した刀に似た形。



来迎印
 浄土からのお迎えの姿を意味する。阿彌陀如来に多い。なお、阿彌陀如来には9種類の印(最上位が「上品上生」、最下位が「下品下生」)がある。極楽往生の仕方は、信仰の篤い者から極悪人まで9段階あり、極楽浄土から阿彌陀様がお迎えに来る際、いずれかの印を表すという。



降魔印
 (触地印)
 悟りを開いた後、釈迦が悪魔を追い払ったポーズ。日本の仏像では少ない。



阿彌陀定印
 瞑想している姿を表す。

【読者から】

仏像は、彫刻、色彩方法、宗教思想が三位一体となつて
 壮大な「美の世界」を作り上げている (三十代・男性)

● 何げなしに入った三十三間堂(京都)の千体仏に打ちのめされ、さらに、お堂の中央に鎮座する千手観音坐像(湛慶作)が醸し出す宇宙にどっ

ぷり引きずり込まれて以来、仏像が大好きになりました。結婚する前の妻とのデートは、ほとんど仏像巡り。百寺以上を訪れました。

● 拝観者の感じ方次第で、さまざまな表情を見せてくれる、厳肅な気持ちにさせてくれるときもあれば母親の優しさのように包んでくれるときもある等々が、仏像の魅力です。好きな仏像を挙げてみました。

● 弥勒菩薩坐像(醍醐寺・京都)
 鎌倉時代・木造・重要文化財

快慶作の名品。きりつと引き締まった唇が何とも美しい。加えて、後背の透かし彫りや背の高い宝冠の彫刻技術が素晴らしい。

● 十一面観音立像(向源寺・滋賀)

平安時代・木造・国宝

十一面観音が密集する湖北の中で、最も美しい仏像。しなやかに垂れている右手が、全世界の人々へ慈悲を与えているよう。頭のとつぺんから足つま先まで、バランスが非常によく、どこか女性的な優しさが漂う。

● 金剛力士像(多禰寺・京都)
 鎌倉時代・木造・重要文化財

慶派の仏師の作らしい。東大寺の金剛力士像と同等以上の力強さがある四メートル級仏で、圧巻。

● 阿彌陀如来像

(平等院鳳凰堂・京都)

平安時代・木造漆箔・国宝

お堂を含めて一つの極楽浄土の世界をつくり上げている芸術性に脱帽。

● 仏像は芸術性だけでなく、自己の内面を振り返ることのできる神聖なアートです。仏像11年寄りという認識を捨てて、老若男女、すべての人々が楽しめる世界だと思います。



阿彌陀如来像

平等院鳳凰堂(京都)

平安時代・木造漆箔・国宝

(写真提供: 平等院)

菩薩

悟りを求めて修行しながら
苦しむ人々を救う

「菩薩」とは、如来になるよう修行に励んでいる者のことです。修行する前の王子時代の釈迦がモデルなので、冠をかぶり、ネックレスや腕輪などのアクセサリーをつけるなど、古代インドの貴族らしい豪華な姿をしています（地藏菩薩は除く）。

最初は釈迦如来だけだった如来にさまざまな種類が出てきたように、如来を目指す菩薩も多く出現しました。弥勒菩薩、地藏菩薩、観音菩薩、文殊菩薩、普賢菩薩、勢至菩薩など、修行内容によって異なり、それぞれに特徴を持っています。観音菩薩は、さらに多くの種類があり、聖観音、十一面観音、千手観音、馬頭観音、如意輪観音、准胝観音などがあります。

また、菩薩にはそれぞれに役割があり、例えば、釈迦が亡くなってから五十六億七千万年後に如来となって人々を救うのが弥勒菩薩、その釈迦が亡くなってから弥勒菩薩が現れるまでの間、人々を救うのが地藏菩薩です。



観音菩薩

ずいぶとう水瓶を持っている。そこには功德水といういくら使ってもなくなる水が入っているという。



地藏菩薩

豪華な姿が多い菩薩の中で、地藏菩薩だけは例外。髪を剃って頭を丸めたお坊さんの姿だ。着ている物も如来と似ている。また、眉間に白毫があるなど、如来と菩薩は肉体的にも共通する部分も多い。



文殊菩薩

「3人よれば文殊の智慧」と言われるように、智慧をつかさどる菩薩。一般的に、剣を持ち、獅子に乗っている。釈迦如来の脇侍。



普賢菩薩

あらゆる場所に現れて人々を救済してくれる菩薩。特に女性を守ってくれる。一般的に、白い象に乗っている。釈迦如来の脇侍。

弥勒菩薩

釈迦の次に仏位につくと約束された菩薩。仏滅後、56億7000万年後に娑婆世界に降りてきて、人々を救済する。いすに座り片足を踏み降ろした姿、右手をほおのところに置いて深い思惟をめぐらす姿が特徴的。

弥勒菩薩半跏像
(宝冠弥勒)
広隆寺(京都)
一木造・飛鳥時代
国宝第1号



持物

仏像のシンボルで、それぞれ意味がある

仏像の持物にはそれぞれの意味があり、仏像によって持物は大体決まっています。「印」と同様、仏像を見分けるときにも役立つ。例えば、薬師如来は薬壺、不動明王は剣と繻索、地藏菩薩は宝珠と錫杖（先に輪の付いた杖）を持っています。



ほうりん 法輪

釈迦の教えが車輪のように早く広がることを表す、釈迦の象徴。如意輪観音のトレードマーク。



れんげ 蓮華

蓮の花は泥の中から汚れることなく美しい花を咲かせることから、煩惱にまみれないことの象徴。観音菩薩が持つ。



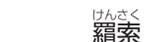
ほうじゆ 宝珠

願い事をかなえ、欲しいものを出してくれる宝の珠。地藏菩薩や吉祥天が持つ。



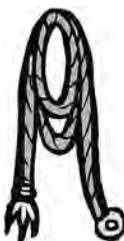
やっこ 薬壺

万病を治す薬が入っており、使ってもなくなりません。平安期以降の薬師如来が持つ。



けんさく 繻索

煩惱を縛ったり、武器として使用する。また人々を救うのにも使われる。不動明王、千手観音、不空繻索観音などが持つ。



ほうけん 宝剣

煩惱を断ち切る柄の短い剣。文殊菩薩や不動明王などの明王や天が持っている。



すいびょう 水瓶

人々の願いをかなえる功德水が入っており、使っても減ることがない。観音菩薩が持つ。



こんごうしよ 金剛杵

金剛（ダイヤモンド）のように硬く、どんなものでも打ち砕くといわれるほど強力なので、煩惱も打ち砕ける。主に明王や天が持っている。



じゆず 数珠

数珠の正式な数は108で、108の煩惱を消滅させると言われている。千手観音や高僧などは数珠を手にかけているものが多い。

【読者から】
仏像は、日本人の心のふるさと、
古来より人の心のよりどころ
(二十代・女性)

昔から興味がありました。大学で美術史を学び、時代とともに変わりゆく仏像の姿を大変興味深く思いました。強く関心を持ったのはそれからです。

仏像の魅力は、この世とはどこか一線を画しているような静かなほほ笑みです。そして、時代の変遷とともに様式も異なり、当時の人々の思いをうかがい知ることができるところにも興味を感じます。

私の好きな仏像は、法隆寺夢殿の救世観音像です。聖徳太子と同じ等身でつくられたといわれ、千年以上封印されてきた仏像で、作者や制作年もいまだ不明で、さまざまな説がささやかれる謎の秘仏であるという点にとってもひかれます。

● 観音菩薩立像（救世観音）（法隆寺・奈良）

飛鳥時代・木造 漆箔・国宝

アーモンド形の目や口の両端を上げたアルカイック・スタイル、独特な体軀の造型が法隆寺金堂の釈迦三尊像（六三三年作）に代表される止利様式に通じることから、釈迦三尊像とはほぼ同時期の制作と考えられている。



(写真協力：法隆寺 写真提供：飛鳥園)

明王

大日如来の怒りの化身
怒りによって人々を教化する

「明王」とは、密教の尊像である大日如来の化身で、大日如来の命を受け、如来の教えに従わない人々に言うことを聞かせて、救済しようとしています。

孔雀明王を除き、怖い顔（憤怒の相）で、煩惱を焼き尽くす火炎を背負い、髪は怒りによって逆立ち、武器類を手に持った姿で表現されることが多いです。

明王の中心となるのが不動明王で、その不動明王を中心に、降三世明王、軍荼利明王、大威徳明王、金剛夜叉明王を「五大明王」としていますが、ほかにも孔雀明王や愛染明王などがあります。ヒンドゥー教がかかり影響しており、腕が六本あるものや、牛に乗っているものなどビジュアル的にもユニークです。

【五大明王の見分け方】

不動明王

お不動さん、不動尊の名で親しまれている。右手に宝剣、左手に羂索という投げ縄を持っている。

降三世明王

独特の降三世印（小指を絡めて人差し指を立てる）を結び、右足でウマ妃、左足でシヴァ神を踏みつける。

軍荼利明王

足や腕に蛇が巻き付き、胸前で腕を交差させ、指を3本立てる大瞋印を結ぶ。

大威徳明王

六つの顔・腕・足を持ち、水牛にまたがっている。

金剛夜叉明王

正面の顔は五眼。六つの手にはそれぞれ金剛杵や弓、宝剣などの武器を持つ。

孔雀明王

孔雀は、害虫や毒蛇を食べることから、孔雀明王が現れた。「災厄や苦痛を取り除く功德」があるとされ、信仰されている。強面の明王の中で、唯一、優しい顔をしているのが特徴。

不動明王三尊像
浄瑠璃寺（奈良）
木造・鎌倉時代
重要文化財



制多迦童子

不動明王

矜羯羅童子

愛染明王坐像
西大寺（奈良）
木造・鎌倉時代
重要文化財



愛染明王

愛や欲望を表現しているため、体は真っ赤。頭には強さを象徴する獅子の冠。宝瓶の上に咲いた蓮の花の上に座っている。宝瓶から宝物が下にこぼれ落ちているものもある。



孔雀明王像
金剛峯寺（和歌山）
木造・鎌倉時代
重要文化財

天

仏法を守護するようになった
インド古来の神々

「天」とは、インドのいろいろの神様が仏教に取り入れられた者。日本では言っならば、八百万の神様といったところなので、姿や役割も多岐にわたります。如来や菩薩を敵から守るガードマンのような役割を果たすため、武装した者も多く見られます。大人気の「阿修羅」もこの部類に入ります。

天は、種類が多く、姿形も非常にバリエーションに富んでいます。通常、仏像は釈迦をモデルにしているのですが、多いのですが、天は女が多いのも特徴的で、日本人になじみの深い弁財天（七福神の中の紅一点）や吉祥天なども天に含まれます。

【四天王の見分け方】

四天王は、仏教の4人の守護神。須弥山の中腹の東西南北で仏法を守護している。甲冑を身に着け、怒った顔で邪鬼を踏んでいる。一般的には4尊を1体として祀る。

多門天

北方を守護する。手に塔を持っている。単独では毘沙門天という。

広目天

西方を守護する。筆と巻物を持っていることが多い。

持国天

東方を守護する。振り上げた右手に武器を持っていることが多い。

增長天

南方を守護する。持国天と左右対称の格好をしていることが多い。

吉祥天

インドの美と幸福の女神。吉祥天像は15歳の美少女がモデルといわれており、左手に何でもかなえてくれる如意宝珠を持っている。唐の貴婦人を表した美しい衣装を身に着けている場合が多い。

四天王立像／広目天
東大寺戒壇院（奈良）
塑造・奈良時代
国宝



金剛力士像／毘形像
東大寺（奈良）
木造・鎌倉時代
国宝



吉祥天女像
浄瑠璃寺（奈良）
木造・鎌倉時代
重要文化財



阿修羅

元はインドの神で、ずっと帝釈天と戦っていた。その激しい戦いの場を「修羅場」という。本来、戦いの神なので、憤怒の表情で体も腕もがっちりしているものが多いが、興福寺の阿修羅像は憂いを含んだ少年のような表情をしている。

八部衆立像／
阿修羅
興福寺（奈良）
脱活乾漆造
奈良時代
国宝



帝釈天

元はインドの最強の神であり、戦いの神であった。阿修羅と戦って、阿修羅を仏教に帰依させた。一般的には梵天と一対でつくられ、中尊の左が梵天、右が帝釈天となる。

帝釈天半跏像
教王護国寺（東寺）
（京都）
木造彩色・平安時代
国宝



羅漢と高僧

釈迦の弟子の中で悟りの境地に達した者や各宗派の開祖

「羅漢」とは阿羅漢の略で「尊敬されるべき修行者」のことです。主な特徴としては、多くが粗末な衣服や僧衣を身に着けています。

代表的な羅漢には、釈迦の十人の主要な弟子の十大弟子、仏法を護持することを誓った十六人の弟子の十六羅漢、その十六羅漢に二尊者を加えた十八羅漢、また、釈迦の五百人の弟子の五百羅漢がいます。

「高僧」には、宗派の開祖の弘法大師（空海）や伝教大師（最澄）など、寺の創始者や実在する有名な僧侶も多くなります。

また、仏教を広めた聖徳太子の像も数多く見られます。救世観音の生まれ変わりといわれている聖徳太子は、神格化され、多くの像がつくられたのです。

むちやく
無著

弟の世親とともに法相宗の開祖。



無著像
興福寺（奈良）
木造・鎌倉時代
国宝

南無太子像
元興寺（奈良）
木造・鎌倉時代

南無太子像

聖徳太子が2歳のときに東の方角に向かって合掌し、「南無釈迦牟尼仏」と唱えると、掌から仏舎利が現れたという伝説にちなんだ像。



鑑真和上坐像
唐招提寺（奈良）
脱活乾漆造
奈良時代
国宝



がんじんわじょう
鑑真和上

鑑真和上は、唐の時代の中国から日本に正式な戒律を伝えるために、5度渡航に失敗し、失明したが、それでも日本にやってきた。



じょうくろ像
萬福寺（京都）
木造・江戸時代

十大弟子

十大弟子は、釈迦の弟子のうち、特に選ばれた10人で、最初の羅漢である。その一人、羅怛羅は釈迦の息子で、人一倍努力をした。この像は自らの手で胸を開き、修行によって得た悟りの姿（仏性）を見せている。

【読者から】

仏像は、信仰の対象でありながら、芸術的価値も高い美術品（二十代・女性）

中学校の修学旅行で見た奈良・薬師寺の聖観音が、子どもながらすごく印象に残っていて、仏像に興味を持つようになりました。

仏像は表情や姿形などが独特で、見ていて時を忘れず。昔の人の想像力や、それを表現する技術はすごいと思います。それから、つくられた時代にも関心がわいてきて、歴史を知る楽しみもあります。

私のお気に入りの仏像たち……

● 六観音菩薩像（大報恩寺〈千本釈迦堂〉・京都）

鎌倉時代・木造・重要文化財

● 千手観音坐像と二十八部衆立像（三十三間堂・京都）

鎌倉時代・木造・国宝

本尊千手観音坐像の左右に並ぶ、千一体の千手観音立像は重要文化財。

● 八部衆と金剛力士立像（興福寺・奈良）

〈八部衆〉 奈良時代・脱活乾漆造・国宝

〈金剛力士立像〉 鎌倉時代・寄木造彩色・国宝

● 十二神将立像（新薬師寺・奈良）

奈良時代・塑造・国宝

十二神将のうち波夷羅（宮毘羅）のみ、安政の大地震で本来の像が破碎されたため昭和六年に補作されたもので国宝から外れている。



十二神将立像
くびら 毘羅大将（招杜羅）
新薬師寺（奈良）
奈良時代
塑造・国宝
（写真提供：新薬師寺）

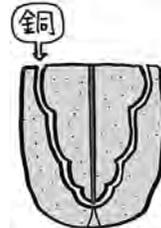
仏像の素材

素材からつくられた時代を知る

仏像の素材は、金、銀、銅、鉄などの金属をはじめ、石、土、木、漆、象牙などの多種多様な材料が用いられました。すべての仏像に共通しているわけではありませんが、各時代によって使われる素材が異なるので、素材からつくられた時代を知ることができません。

大きく区分すれば、飛鳥時代は金銅仏が主流で、奈良時代に塑像、乾漆像が登場し、平安時代に入ると一木造と寄木造の木彫仏が盛んにつくられるようになります。そして、鎌倉時代にはこれらの技術がさらに進化し、仏像新時代を迎えたのです。

なお、日本の仏像は木彫のものが一番多く、重要文化財に指定されているものの大半も木彫です。それは、森林が多い日本の風土によるものと思われませんが、用いられた木の種類は、時代、地域によっても異なっています。



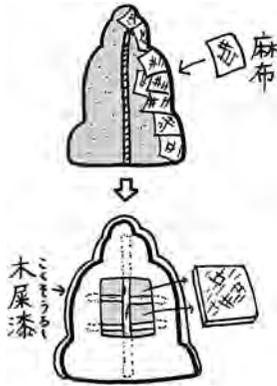
金銅仏

土で原型をつくり、蠟を塗って細部を彫刻する。その周りを土の外型で覆って焼くと蠟が溶けて空洞ができ、そこに溶かした銅を流し込む。型の中で銅が固まって外型を外すと銅の仏像ができる。その銅仏像に金メッキを施すと金銅仏になる。



塑像

粘土（塑土）でつくった像。芯にする木に縄を巻いて、粗い土を盛り、そして次は細かい土を順番に盛ってつくられる。



乾漆像

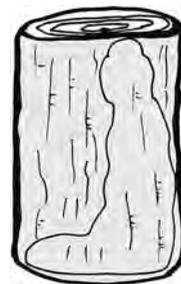
「脱活乾漆像」と「木心乾漆像」の2種類がある。脱活乾漆像は、まず木を芯にして土で原型をつくり、その上に漆に浸した麻布を張り重ねていく。そして漆の乾燥後、背面などに窓をあけて土をかき出し、改めて中心に心木を組み入れる。表面は漆と木屑、糊を混ぜた「木屎漆」を盛りつけて細部をつくり、最後は金箔や彩色で仕上げる。中身が空洞なので軽い。

木心乾漆像は、大まかな木彫像の原型をつくり、その原型に漆と木屎漆を盛り上げて細部整形し、像を完成させる。奈良時代に多くつくられた。



寄木造

数点の木材を組み合わせてつくる。平安後期ごろより使用された。



一木造

1本の木材からつくる。平安前期まで多くつくられた。

時代区分と主な仏像の制作年代

鎌倉	平安	奈良	白鳳	飛鳥
金剛力士像（東大寺南大門） 〈寄木造・彩色〉 無著・世親立像（興福寺北円堂） 〈寄木造・彩色〉	釈迦如来立像（清涼寺）〈木造・素地・大金〉 阿弥陀如来坐像（平等院鳳凰堂） 〈寄木造・漆箔〉 大日如来坐像（円成寺） 〈寄木造・漆箔・玉眼〉 金剛力士像（東大寺南大門） 〈寄木造・彩色〉	教王護国寺講堂諸像（五大明王像など） 〈一木造・漆箔〉 阿弥陀如来坐像（広隆寺講堂） 〈木造・乾漆併用・漆箔〉 如意輪観音菩薩半跏像（観心寺） 〈一木造・乾漆併用〉 阿弥陀三尊像（仁和寺）〈一木造・漆箔〉 阿弥陀三尊像（清涼寺）〈一木造・漆箔〉 十二面観音立像（六波羅蜜寺） 〈一木造・漆箔〉	薬師三尊像（薬師寺金堂）〈銅造〉 八部衆・十大弟子立像（興福寺） 〈脱活乾漆造・彩色〉 不空羼索観音菩薩立像（東大寺） 〈脱活乾漆造・漆箔〉 四天王立像（東大寺戒壇院）〈塑像・彩色〉 十二神将立像（新薬師寺）〈塑像・彩色〉 盧舍那仏坐像（唐招提寺金堂） 〈脱活乾漆造・彩色〉 十一面観音立像（聖林寺） 〈木心乾漆造・漆箔〉 薬師如来立像（神護寺）〈一木造〉 四天王立像（興福寺北円堂） 〈一木造・乾漆併用・彩色〉	釈迦三尊像（法隆寺金堂）〈銅造〉 弥勒菩薩半跏像（広隆寺）〈木造〉 百済観音菩薩立像（法隆寺）〈木造〉 夢違観音（法隆寺）〈銅造〉 釈迦如来倚像（深大寺）〈銅造〉 薬師三尊像（薬師寺金堂）〈銅造〉 八部衆・十大弟子立像（興福寺） 〈脱活乾漆造・彩色〉 不空羼索観音菩薩立像（東大寺） 〈脱活乾漆造・漆箔〉 四天王立像（東大寺戒壇院）〈塑像・彩色〉 十二神将立像（新薬師寺）〈塑像・彩色〉 盧舍那仏坐像（唐招提寺金堂） 〈脱活乾漆造・彩色〉 十一面観音立像（聖林寺） 〈木心乾漆造・漆箔〉 薬師如来立像（神護寺）〈一木造〉 四天王立像（興福寺北円堂） 〈一木造・乾漆併用・彩色〉

仏像を楽しもう

「自分の好きな仏像」を
探しに出かけよう

「仏像、大好き!」、いかがでしたか。

「仏像って、古くさいし、宗教っぽいし、難しそうだし……」って思っていた方たちにも、ちょっとぴり関心を持っていただけたらともうれしいです。

東京国立博物館で開催された「興福寺 阿修羅展」が最近の仏像ブームの火付け役とも言われていますが、それ以降、仏像好きが多くなったように思います。読者アンケートでも、「阿修羅展を見てから仏像に興味を持つよ

うになった」という回答が数多くありました。

「好きな仏像」では、奈良の大仏(東大寺)と阿修羅像(興福寺)が人気の双璧です。でっかい「大仏さま」と守ってあげたくなるほど可憐な「あしゅらさま」、どちらも人々を魅了します。

ちなみに、奈良の大仏は地震で首が落ちたり、平重衡の焼き討ちで焼かれたりして、創建当時(天平15)のものは台座の蓮弁と足の一部のみで、頭部は江戸時代、体部は大部分が鎌倉・室町時代に補修されたものです。

初心者は「国宝仏」から

仏像を見に行こうと思った際、最初どの仏像を見に行ったらいいのかわからないという人も多いでしょう。そういうときは、まず「国宝仏」を見に行きましょう。

そもそも国宝とは、重要文化財のうち、「国民の宝たるもの」として文部科学大臣が指定したものですから、「国宝仏」は国の宝と認められた、素晴らしい仏像たちなのです。

現在国宝に指定されている仏像は百二十六件(一件で数体のものもある)ですが、なんとその大半が奈良と京都にありますから、仏像を見るなら、文字通り、「そつだ、奈良・京都へ行こう!」です。

奈良では、東大寺・興福寺・法隆寺・薬師寺・新薬師寺・唐招提寺、京都では、三十三間堂・東寺・広隆寺

寺・平等院・浄瑠璃寺を見て回れば、半分近い国宝仏が見られます。また、奈良国立博物館と京都国立博物館(平常展示館は建て替え工事のため休館中)、東京国立博物館本館と法隆寺宝物館もおすすめてです。

仏像は見れば見るほど奥が深くて、知れば知るほど面白くなって、そして、いくら見てもキリがないほどの仏像が日本にはあります。ぜひ、仏像に会いに出掛けてください。



田中ひろみ氏 略歴

大阪府生まれ。セツ・モードセミナー卒。イラストレーター&文筆家として、広告や雑誌、書籍などで活躍中。

京都の三十三間堂で仏像への恋に落ちた以来、全国各地の仏像を拝観し続けている。歴史に対する造詣も深く、読売・日本テレビ文化センター等で仏像の見方や史跡巡りの講師も務める。著書に、『仏像、大好き!』(小学館)、『ふらりおへんろ旅』『拝んでしあわせ奈良の仏像100』(ともに西日本出版社)、『田中ひろみの勝手に仏像ランキング』(メディアアイランド)、『東京江戸たんけんガイド』(PHP研究所)、『B型男と幸せになる方法』(KKベストセラーズ/ワニ文庫)、『クイズで入門 日本の仏像』(講談社+α文庫)ほか多数。奈良市観光大使や丸の内はんにゃ会代表も務めている。

田中ひろみさんの「一番好き!」



阿弥陀如来立像(見返り阿弥陀) 禅林寺(永観堂) 阿弥陀堂(京都) 木造・鎌倉時代・重要文化財

- 〈出典・参考文献〉
- 『仏像、大好き!』 田中ひろみ著(小学館)
- 『拝んでしあわせ奈良の仏像100』 田中ひろみ著(西日本出版社)
- 『田中ひろみの勝手に仏像ランキング』 田中ひろみ著(メディアアイランド)
- 『日本100の仏像』 田中ひろみ監修(JTB)
- 『週刊日本の仏像』(講談社)
- 『二人』(二〇〇九年六月号) (KKベストセラーズ)